

会 議 要 旨

(1 / 3)

会議の名称	令和元年度第2回川越市健康づくり推進協議会
開催日時	令和元年 8月6日(火) 13時30分開会 ・ 14時50分閉会
開催場所	川越市総合保健センター 3階研修室
議長氏名	会 長 廣澤 光昭
出席者氏名 (人数)	委 員 西村 早苗、今井 恒晴、井上 弘美、大塚 賢一、岩田 淳、 原 伸次、長峰 す美子、米原 民子、志村 洋子、矢部 孝、 江尻 旬子(12名)
欠席者氏名 (人数)	副会長 新井 正司 委 員 宮山 徳司、松本 勝、黒須 淳一、森山 康代、原 知之、 三芳 弘道(7名)
事務局職員氏名	保健医療部長 神田 宏次 健康づくり支援課 課長 嶋崎 鉄也、副課長 勝村 則子、主幹 千葉 幸子、 主幹 有馬 理恵、副主幹 長澤 朋子、主査 松田 博美 主査 小高 久美子、主査 斎藤 愛、主査 佐藤 麻記子
会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 議事 (1) 川越市の健康課題について (2) (仮称)健康かわごえ推進プラン(第2次)骨子(案) 4 その他 5 閉会
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 委員名簿 ・ 資料1 川越市の健康課題について ・ 資料2 課題整理シート ・ 資料3 (仮称)健康かわごえ推進プラン(第2次)骨子(案) ・ 資料4 各ライフステージにおける「生きがい」イメージ図(案) ・ 参考資料 関係団体における健康づくり等の取組 ・ 資料番号無し 健康マイレージ、ウォーキング講習会

議 事 の 経 過

<会議の概要>

川越市の健康課題及び現行の「健康かわごえ推進プラン」のライフステージごとの達成状況や課題等について説明した。また、評価を踏まえた次期プランの骨子案について提示し、意見を求めた。

<決定事項>

次期計画策定について、委員からの意見を踏まえた上で、事務局が提示した方向性、内容により検討を進めていくこととする。

<発言内容等>

【川越市の健康課題について】

- 食育はどれも改善がみられなかったが、国等計画でも変化がみられていない。
- 適正体重の者の割合は食べた量と消費量の結果である。食べる内容を変えるか、沢山動くかであり運動とも深く関係している。活動量に合わせて食事をコントロールすることが必要だが、そもそも BMI に問題がある年代は食事の中身や野菜の摂取も悪い上に運動習慣の割合も低い。運動量に合わせて食事をしたら、栄養不足に陥る。色々な問題が重なりあい改善していないことがわかる。
また、野菜を増やそうと思うとお金も手間もかかる。ひと手間をかける人が増えていかないと改善していかない。
さらに、欠食の問題も大きい。最近では子どもの欠食も増加傾向である。さらに自己管理に任せられた時から欠食が「習慣化」している。
- 共食は、一人暮らしが増える中目標値に近づけていくことは難しいが、そもそも共食ができる人が共食することを大事に思っていないことが問題である。一人一人が正しい知識を持っていないと長期的に身体のことを考えられない。
- 学校教育の中でも食育はやっているがなかなか変わらない。もっと学校と協力してやっていかなければならないと思う。
- 国の目標に食品ロスが入ってきた。行動につながりやすく目標に近づいてきている。
ライフステージごとに食習慣がしっかりしていけば、病気を防ぐことにつながっていくと思う。改めて食育の重要性について感じた。評価としてはよくないが、色々なところで取組みを共有してやってほしい。
- 歯科健診を受けることでさまざまな疾患が軽度になり、日本経済を救うことができる。
資料 1 P2 で川越市は脳梗塞が医療費を高く占めている。すべての原因が歯周病菌ではないが、歯周病菌が血液を固まらせることがわかっている。
また、認知症についても義歯を入れることで防ぐことができるので、歯周病ケアは非常に重要である。課題の中に「歯周病健診を受けること」を入れてほしい。
- PTA の活動として地域の方とのコミュニケーションのためラジオ体操を普及啓発している。
また、小・中学生周囲の環境（タバコ）も考えていかなければいけないと感じた。環境については着目していなかったので、PTA に持ち帰りたい。
小学生にはがんについての教育を行うことになっている。がんにならないための習慣として食育等につなげられていければよい。
- 歯並びががん（口腔がん）につながることもがん教育の中には是非入れてほしい。

議 事 の 経 過

- 最近、若い世代では登校拒否が増えている。通学班で行くことが嫌だという理由があるようである。昔は隣近所と誰でも顔が分かる関係であったが、時代とともに変化していると感じる。
また、高齢者では老老介護から元気な人が心の病気のなるケースが多い気がする。上手くサービス等を利用できればよいが使わない人が多い。

【(仮称)健康かわごえ推進プラン(第2次)骨子案について】

- 社協でもソーシャルコミュニティワーカーがそれぞれの地区で相談を受けている。その中では引きこもりの方の支援をすることもある。元々の相談ではなく介護の問題で介入して、実は息子さんが引きこもりだったという相談も多い。潜在的な部分も多々あり、休養・こころの部分での課題抽出はとても難しい。実態をアンケートではリサーチし切れない部分がある。
- 社協ではボランティアの担い手・育成が課題である。最近ではボランティア活動を周知啓発してもあまり集まらないのが現状である。以前と比べ意識が変わってきている。回数を重ねてやっていきたい。